

これからの狩猟の担い手 ～森林官ハンターとしてエゾシカ対策を考察～

網走中部森林管理署 森林官 中西 誠

【はじめに】

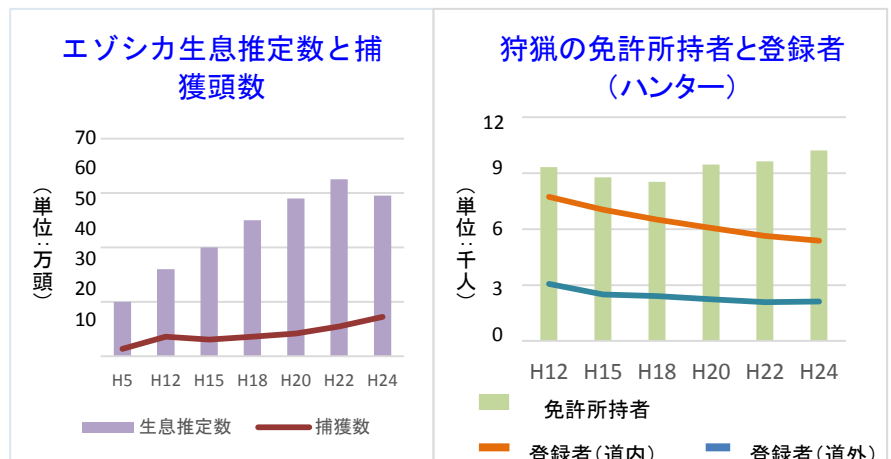
近年、エゾシカ対策の担い手であるハンターの高齢化・減少が問題となっている。また、国有林で狩猟事故等が発生している。そこで、ハンターへのアンケート調査等を行い、自身がハンターとして狩猟を行っている立場から今後の狩猟の担い手について考察した。

【現状と課題】

エゾシカ生息推定数は増え続けてきたが、捕獲頭数が増えたことにより平成24年度は減少している。

エゾシカを捕獲するには、狩猟免許を取得するとともに狩猟者登録が必要である。狩猟免許所持者は増えてきたが、狩猟者登録者（ハンター）は減ってきている。

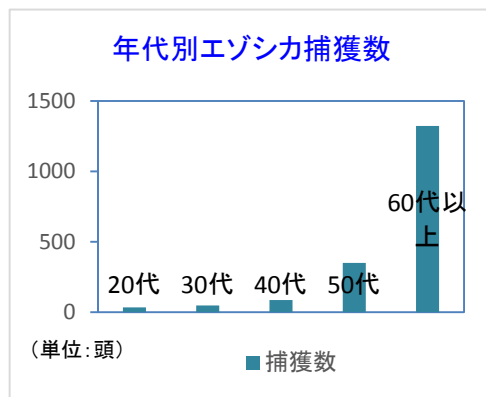
また、ハンターのマナーの低下などが指摘されている。



(資料: 環境省平成22年度鳥獣保護管理委員会(北海道説明)資料、北海道統計資料より作成)

【北海道猟友会北見支部アンケート結果について】

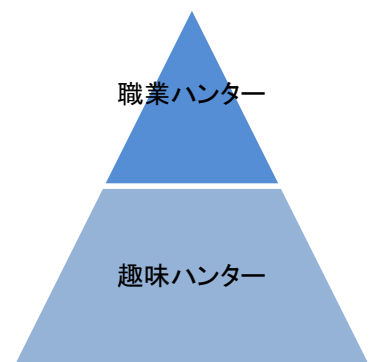
エゾシカ捕獲の中心となっているベテランハンターの半数以上が60才以上の高齢者である。



(北海道猟友会北見支部アンケート結果より)

【海外の事例について】

狩猟は林業技術の一部との考えがあり、趣味ハンターと職業ハンターがいる。また、職業ハンターの資格制度がある。



(海外のハンター体制イメージ図)

【考察】

現在、シカを捕獲している主たるハンターの多くは、高齢のベテランハンターであるが、これらの人々は近々引退することから、狩猟技術やマナー等の質の高いハンターを講習会などを通じ、育成・確保することが必須。

また、海外の事例のように狩猟を職業とする気運が高まっていくことに期待。

森林管理署のエゾシカ対策として、エゾシカ形跡等に関する調査をしており、この情報の提供について検討したい。